



同志社女子大学音楽学科公開講座

歌とヴィオールで旅するバロック時代のヨーロッパ

(バロック時代の装飾音とディミニューション)



クレール・ルフィリアートル(ソプラノ)

カーンのコンセルヴァトワールにてディプロマを得た後、バロック時代の歌と表現の魅力に強く惹かれ、歌をアラン・ビュエ、ヴァレリー・ギヨリ、そしてバロックの朗唱法と表現法（ジェスチャー）をウージェンヌ・グリーン、バンジャマン・ラザールの下で確立する。身体と声との関わりの重要さへの思いから、パリの国立アレキサンダーテクニクセンター（Centre de Formation Technique Alexander）ディプロマコースでアニエス・ブリュノフに師事する。

ル・ボエム・アルモニックをはじめとし、数多くのアンサンブルと共演。オペラ、歌曲にとどまらず、型にはまらない新しいプロジェクトを生み出すなど、名実ともにフランスバロック界を代表するカリスマ的存在である。また、教育への強い情熱を持ち、世界各地でマスタークラスを行い、受講者からの信望も厚い。

日本にも数回来日しており、その心に響く歌唱力で、ファンも数多い。

上村かおり（ヴィオール奏者）

3才でヴァイオリン、12才でヴィオールを始める。上野学園、ブリュッセル王立音楽院を首席で卒業。ヴィオールを大橋敏成、ヴィーラント・クイケンの各氏に、また演奏法をミッシェル・マッシーナ氏に師事。これまでに、ベルギー、フランスを拠点とし、リachelカール・コンソート、レザール・フロリッサン、レ・タラン・リリック、またオランダのバッハ協会などと共演、アンサンブル奏者として、また数少ないフレンチオペラの通奏低音奏者として、仲間からの信頼も厚い。さらに、バッハのカンタータや受難曲のガンバソロに招かれるなど、ヨーロッパの第一線で活躍している。

東京で率いるロイヤルコンソートの、イギリス音楽を中心とした演奏会や、メモリアルホールで毎年行うシリーズにも定評がある。ブリュッセル在住。



2019年10月23日(水) 15:00 (開場14:30)

場所：頌啓館K101ホール 入場料：無料

(※ 途中入場・退場可)

～Access・お問い合わせ～

同志社女子大学京田辺キャンパス 〒610-0395 京都府京田辺市興戸南鉾立97-1
(近鉄線「興戸」駅より徒歩10分、JR学研都市線「同志社前」駅より徒歩3分(正門まで))

※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

Tel: 0774-65-8501 (学芸学部音楽学科直通) 本学HP <http://www.dwc.doshisha.ac.jp/>